

◇会議報告◇

2022 年下期 IFASS 会議報告

SSBJ ディレクター 小西 健太郎

ASBJ アシスタント・ディレクター 牧野 めぐみ

1. はじめに

会計基準設定主体国際フォーラム（International Forum of Accounting Standard Setters; IFASS）は、各法域の会計基準設定主体及び会計基準に関連する諸問題に対する関心の高いその他の組織による非公式のネットワークである。IFASS 会議は、毎年、春と秋の 2 回開催されている。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにより、2020 年秋の会議からウェブ会議形式で開催されてきたが、本会議は 3 年ぶりのロンドン市内の会場での開催となった。オンラインでの参加も可能とされた。会議には各法域の会計基準設定主体（約 35 団体）からの代表者に加えて、欧州財務報告諮問グループ（EFRAG）や他の地域グループの代表者、国際公会計基準審議会（IPSASB）など約 100 名がロンドンでの会議に参加し、約 80 名がウェブ会議で参加した。企業会計基準委員会（ASBJ）及びサステナビリティ基準委員会（SSBJ）から、川西 ASBJ 委員長兼 SSBJ 委員長、紙谷 ASBJ 副委員長、山口 ASBJ 委員及び筆者が出席した。

2. 全体のスケジュール

今回の会議の議題は、次のとおりであった。

	議 題	担 当
2022 年 9 月 27 日		
1	歓迎と開会の挨拶	IFASS 議長
2	「のれんの事後測定」に関するアップデート	英国

国際関連情報

	議 題	担 当
3	・ IFRS 第 9 号「金融商品」適用後レビュー「分類及び測定並びに減損」 ・ ESG 連動要素を有する金融商品の会計処理	オーストラリア 米国 イタリア
4	キャッシュ・フロー報告の改善	カナダ
5	IFRS 第 15 号「顧客との契約から生じる収益」適用後レビュー	国際会計基準審議会 (IASB) 、 EFRAG
2022 年 9 月 28 日		
6	サステナビリティ報告に関する法域の視点 (気候関連リスク)	<u>プレゼンテーション</u> EFRAG、IPSASB、米国証券取引委員会 (SEC) <u>パネル・ディスカッション</u> モデレーター：国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) パネリスト:オーストラリア、英国、ケニア、韓国、日本
7	自然関連財務開示タスクフォース (TNFD) リスク管理及び開示フレームワーク	TNFD
8	デジタル資産	カナダ、EFRAG、米国、日本
9	IFRS for SMEs 会計基準の包括的レビュー	IASB、IFR4NPO プロジェクトチーム、アルゼンチン、全アフリカ会計士連盟 (PAFA) 、スリランカ、英国
10	次回のアジェンダ計画	IFASS 議長
11	閉会の挨拶	IFASS 議長



会議の冒頭では、前回の会議まで IFASS 議長を務めた ASBJ の川西委員長から、IFASS 新議長である EFRAG の Chiara Del Prete 氏への交代セレモニーが実施された。

3. 議事概要

(1) サステナビリティ報告に関する法域の視点：気候関連リスク

本セッションの前半は、サステナビリティ報告に関して、複数の団体からプレゼンテーションが行われた。最初に、EFRAG より、欧州サステナビリティ報告基準（ESRS）第 1 号「気候変動」の開発状況が紹介された。次に、IPSASB より、2022 年 5 月に公表された協議文書の概要が紹介された。最後に、SEC により、2022 年 3 月に公表された気候関連リスクの開示規則案の概要が紹介された。

本セッションの後半は、ISSB 副議長の Sue Lloyd 氏が司会を、オーストラリア会計基準審議会（AASB）、英国の財務報告評議会（FRC）、韓国会計基準委員会（KASB）、ケニア公認会計士協会（ICPAK）及びサステナビリティ基準委員会（SSBJ）の代表者がパネリストを務める形で、ISSB が 2022 年 3 月に公表した 2 つの公開草案をテーマとしたパネル・ディスカッションが行われた。SSBJ からは川西委員長が参加した。



パネリストからは、ISSB がグローバル・ベースラインを提供するというアプローチに対する支持が表明された一方で、各法域が置かれている状況が異なるため、産業別要求事項の適用可能性や将来の財務的影響に関する定量的情報の提供に対して懸念があることなどについて意見が述べられた。

(2) デジタル資産

最初にカナダ会計基準審議会（AcSB）より、暗号資産の市場規模は拡大しており、この拡大は今後も継続が見込まれるとする予想があること等、暗号資産市場の現状に関する紹介が行われた。次にEFRAGからは、EFRAGが2020年に公表したディスカッション・ペーパー「暗号資産（負債）の会計処理」において取り扱われている論点、及び2022年に公表した「提案とフィードバック・ステートメント」におけるEFRAGによる暗号資産（負債）に係るIFRS会計基準開発の提案に関する説明が行われた。また、AcSBからは、カナダにおいて議論されている会計論点の紹介が行われた。さらに、米国財務会計基準審議会（FASB）からは、FASBが2021年に公表した将来の基準設定アジェンダに関する「意見募集」に対してデジタル資産に関して受取ったフィードバック、及び現在のFASBにおける暗号資産に関する開発状況について紹介が行われた。最後に、ASBJからは、暗号資産に関するASBJのこれまでの公表物の紹介と現在のASBJでの議論の状況について紹介が行われた。



参加者からは、暗号資産と現金同等物との関係に関するコメントや、今後の基準設定の方向に関してパネリストへの質問等が行われた。

4. 次回の予定

次回の IFASS 会議は、2023 年 4 月に米国 Norwalk で開催される予定である。

以 上